はじめに

早稲田大学の現代文にて合格点を獲得するための対策講座です。

記述よりも選択肢問題が主な私大タイプとしては、早大現代文は上智大と並んで、**日本最高難度**です（慶應義塾大学は、「国語・現代文」ではなく、小論文を課します）。難易度が日本最高水準と言っても、**かつてと違い**、おおむね二十一世紀以降の早大現代文は、**〝まっとうな難しさ〟**と言えます。かつては、本文に書いてあることからの論理的な判断や正当な推測がきわめて困難な選択肢問題などがしばしば見られました。答えとその根拠は出題者しか知らないというような問題です。そのため、入試問題の解答解説を刊行している各出版社や予備校ごとに「正答」とされるものが異なるなどという事態も、よくありました（センター試験と異なり大学自体は、正解を発表しませんので）。

近年は、そうした**奇問は、ほぼ姿を消した**ようです。したがって、**〝正当な現代文〟の力**が試されています。そこでは**抽象度の高い文章**を読みこなし、**微妙に見える選択肢から最適なものを吟味する力**が問われています。ゆえに、本講座においても実際の早大の過去問題を素材にし、そうした力に磨きをかけられるように講義しています。

また、**学部ごとの個性**があるということも早稲田大入試の特徴です。そのため、本講座でもそうした、**特徴の特に強い学部**を中心に構成しています。例えば、関連した複数の文章を一度に課す文化構想学部、記述を課す法学部、近代文語文を課す政治経済学部や文化構想学部などです。なお、文学史の教養を問うのも文学部ではなく政治経済学部の特徴です（ごくまれに出題しない年度もありますが）。そこで、**文学史過去問題の総復習とそれにもとづく予想問題**をつけました。

勘や運や感覚に頼らない、論理的な文章の理解力や言葉を吟味する力は、大学にてそれぞれの専門に進んだ際にも、専門書が読める力、論文を書ける力として役立つことは言うまでもありません。また、将来、職業人になるにしても、教養ある職業人として企業や社会に貢献しつつ自らを高めるためのベースメントでありつづけます。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ノートの取り方

テキストへの**書き込みが基本**です。**赤／青／緑**（黒板では緑ですが、第三の色であれば何色でもＯＫ）**の三色**をご用意ください。文章の対比を色分けして塗っていきます。主役キーワードが赤、敵役キーワードが青、脇役キーワードが緑です。

解法の手順……**文章（論説も小説も）は、すべて対比とその言い換えの連鎖からできている。そうであるならば……**

少しでもはやく確実に読解するために

1　本文末の**書名＝タイトルをみる**　→　**テーマが判明**することが多い。さらには、「○○と△△」というようにいきなり**対比発見のてがかり**をくれることもある（ただし、早稲田の現代文では、筆者名も書名も隠されることが多い）。

2　**設問の傍線部と問題文**をざっと読み、キーワードの見当をつける（**設問は本文のキーワードにかかわる**ことが多い）。タイトルの次は「キャスティング＝配役＝誰が出演するのか」に注目。本編の前に「エンドロール」を見てしまう感じです。ただし**選択肢まで読んではダメ**。五択で四つは誤りの選択肢なのだから、先に読むと歪んだ先入観ができてしまう。もっとも全選択肢の書き出しが共通ならば、そこは先に見てもよい。

3　**本文最後の数行をさきに**目を通し、テーマおよび結論、キーワードと対比の見当をつける。

4　**本文を冒頭から読み**、設問の傍線部にあたるたびに、選択肢を読み、その時点でしぼれるものはしぼる。ただし問いの約半数は全文を読みとおさないと解答できないから、読んでいる途中で判断できないものは先送りにする。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

記述式問題解答へのガイドライン

1　**字数指定の八割以上**書くことがのぞましい（「五十字以内で説明せよ」という設問なら四十字以上書く）なお、指定字数の半分（五割）に満たない場合は、採点の対象とならないことが多い（つまり0点）

2　記述解答の採点は、**原則的に加点制（ポイント制）**（キーワード・キーフレーズごとに得点を与える。つまり、余分なことを書いたとしても減点はされないのが普通だから、字数の許す限り、重要と思った語句を記入してやる）

3　**誤字・脱字・略字**はそれぞれ1点減点（とくに略字は印象悪いよ！）

4　**「理由はなにか」「なぜか」**などの問いかけに対しては、「〜から。」「〜ので。」「〜ため。」など理由を示す語でしめくくる。そうでないと、1点減点。逆に、理由を求めている設問ではないのに「から」「ので」「ため」でしめくくると減点だよ。

その他解答欄・解答用紙に関する諸注意

a　| |人|間|は|…| → ※**「原稿用紙」ではなく「解答欄」**だから最初のマスを空ける必要はない

b　|…|…|…|こ|と| → ※**句点なし！**（1点減点）
設問文に「句読点も字数にかぞえる」とある場合、文末には必ず句点（。）をつける・句読点をかぞえるという指摘がない場合でも、「説明終わり」の印として句点（。）をつけるのが原則
ただし、「抜き出せ」という設問の場合は、当然本文のまま（余分なものは付けない）

c　|…|…|…|こ|と。| → ※**句読点は一文字分！**（1点減点）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

より本質的な記述問題への解答の仕方〈答案に盛り込むべき要素〉

○具体例は原則としてカット。よりまとまった表現を解答に盛り込むべし！
○対比の表現（AではなくBである）！
○繰り返し、言い換えられている表現は大事。ただし一本化！

抜き出し問題の諸注意……「語」「語句」「一文」などと表記されているものの範囲について

○「語」＝「一単語」・「ワン＝ワード」・「一品詞」（ただし「一文字」とは限らないからね！）
○「語句」＝複数の単語もありうる。「語」よりも広い概念。「部分」と表記されることもある。
○「一文（文）」＝句点（。）で区切られるまとまり。

語　語句

（例）心身の一体性、すなわち、身体が真に身体としてあるとき、身体は「外部」的ではない。この考察は、「道具」を見直す契機になる。

⇒ 一文・文

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

誤りの選択肢の典型例一覧　〈誤りに名前をつけられるほどのパターンがある！〉

1　対比混乱の誤り　……本文中で**対比・区別**されていることばを同種のものとして扱ってしまっている誤り。あるいは、主役キーワードの説明を求めている設問で、敵役キーワードを挙げている誤り。**キーワードのグループ分け失敗**の選択肢といってもいい。

2　同一性分断の誤り　……本文中で同種のことばを対比であるかのように扱ってしまっている誤り。これも**キーワードのグループ分け失敗。同質性分断**ともいう。

3　正しい対比喪失の誤り　……本文中で**「A↔B」**という対比で記述されているのに、無関係な「C」という要素を勝手にもちこんだり、**「C↔D」**といった本文にない対比をもちこんでいる誤り。例えば、本文は**「善↔悪」**という対比で書いているのに、「美」や「醜」という無関係な対比をもちこみ、本文の正しい対比を見失っている誤り。

4　不当な全称判断　……本文中の記述がないのに、**「すべての○○は」「あらゆる○○は」**と勝手に拡張している誤り。類似した誤りとして**不当な一般化**があります。例えば本文では「バラ」という個別のものに焦点を当てているのに、「花というものは」などと拡張している誤り。

5　不当な限定判断　……本文中の記述がないのに、**「○○のみ」「○○だけ」**と勝手に縮小してしまっている誤り。類似した誤りとして**不当な矮小化**（わいしょう）があります。例えば本文では「人間関係全般について」書いてあるのに、「近所づきあい」の次元を書いている選択肢。話を不当にちっぽけにしているわけです。

6　不当な価値判断　（不当な当為（とうい）判断）……本文では「○○である」「○○だ」という事実判断をしているのに、**「○○であるべきだ」「○○にしなければならない」「○○する必要がある」**と勝手に改変してしまった誤り。またAとBの特徴の比較をしているだけなのに、**Aの方が優れているといった優劣を持ち込んだ**選択肢の誤り。特に論文を読んだり書いたりする上で、「事実判断と価値判断（当為判断）」との違いには気を使う必要があるんだよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

7 **部分的指摘の誤り**

……本文中では、「AともにB」「Aと同時にB」「AしかもB」と追加表現がなされているのに、「A」だけ、あるいは「B」だけを扱ってしまっている誤り。本文の記述にまったく反しているわけではないため、「高度な」誤りといえます。こういうものに気づけるようになることが、現代文での高得点のカギだよ。

8 **記述に反する誤り**

……文字通り、本文中の記述に真っ向から反する選択肢。例えば本文では「AはBである」としているのに「AはBではない」としている誤り。

9 **記述なし**

……文字通り、本文中の記述にはいっさい書いてない内容を勝手にのせている選択肢。ただし、「本文の記述に反しているものを選びなさい」といった間違い探しの設問のとき、本文には書いてないだけで、間違いとはいえないということがあるから注意。つまり、「誤り」としては1～8・10～12のほうが深刻な誤りといえ、そちらを優先する。

10 **文脈喪失の誤り**

……文章中で特定の意味づけをして使っていることばを、**文脈外の「常識」や辞書的な意味**で扱ってしまっている誤り。例えば、「飛躍」ということばを、本文は「行き過ぎ」「誤解」という意味付けをして記述しているのに、勝手に「発展」「前進」というようにとらえてしまっているもの。

11 **物理的スリカエの誤り**

……**心理や気持ちを問うている設問で、物理的に説明している選択肢。**小説問題の選択肢としてよく出ます。例えば「暗い気持」を天候や日照量の説明にしてしまっている誤り。

12 **比喩を文字通りに解釈した誤り**

……本文中で、たとえになっている表現（擬人法もふくむ）を文字通りにとってしまった選択肢の誤り。比喩は立派な表現技法です。これをリアルに解釈するとずいぶんおかしなことになります。例えば「いやー、歩きつかれちゃって、膝（ひざ）がわらってるよ」なんて表現があるけど、ホントに笑ったら怖い！

13 **具体例は、一段、落ちる**

……具体例を挙げている選択肢は、「最も適当」な選択肢を選ぶ際には、選びたくない。もっとまとまった語句を盛り込んでいる選択肢が正解になる。

14 **比喩による説明は、一段、落ちる**

……たとえで説明している選択肢は、「最も適当」な選択肢を選ぶ際には、選びたくない。もっと明示的な語句を盛り込んでいる選択肢が正解になる。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

予習の仕方

……必ず予習しましょう。映像講義を視聴しているだけでは、解答力は身に付きません。その上で、以下のようなプランが考えられますが、プランCをオススメします。

プランA……映像授業を見る前にまず、自力で解答する
プランB……映像のチャプター1（タイトルと設問条件解説・最終段落先取り読み）まで見てから映像を止めて、解答する
プランC……第一講までプランBで、解法の手順をしっかり学んだ後、第二講からプランA
プランD……現代文があまり得意ではない方は、第二講以降、AとBを交互に繰り返す。例えば、偶数の講義ではプランA、奇数の講義ではプランBというように

予習の時間

＝問題にアタックする演習時間

各講二十五分が基本です（ただし、以下のようなアレンジも可能です。パターンCがオススメです）。

パターンA……右の基本時間通り
パターンB……時間設定にとらわれず、納得いくまで解答する
パターンC……基本時間通りで解答する講と、じっくり納得いくまで解答する講を交互に繰り返す。時間設定を気にするあまり、読み方や解法が雑になっては元も子もありません。かといって悠長に構えすぎてもダメ。本来入試は時間限定付きですから。そこで、じっくり解く回と本番を想定した回を交互に組み合わせましょう。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

目標得点……配点はしてありませんから、その講義ごとに、全何題中いくつできたのか、という得点率
（例えば第一講なら全部で六題ありますから、四つ以上が正解なら六十五％以上の得点率で目標クリア）

○　第一講〜六講……**六十五％以上**
○　復習問題…………**八〇％以上**

復習の仕方について

予習と授業が柱ですが、復習するなら……

設問をもう一度解き直すというタイプの復習はオススメできません。勉強したような気になるだけで、現代文の場合、発展的な学習とは言えない。現代文入試問題での読解力・解答力を向上させるためには、同じ問題を解き直すのではなく、授業をモデルとして、問題集などで新しい問題に次々チャレンジしていきましょう。スタディサプリでも多くの講座が用意されています（早大の過去問を使っている講をまとめたページがあります。参考にしてください）。その文章・設問も対比で読める・解けるようにする訓練を続けることが有効です。

おすすめの問題集

『私大編　現代文のトレーニング　改訂版』（Z会出版）
『入試現代文へのアクセス　発展編』（河合出版）
『入試現代文へのアクセス　完成編』（河合出版）
『入試精選問題集　現代文』（河合出版）

教材選定について

- すべて早稲田大学の過去問の中から良問をセレクト
- 早大現代文のモデルとなる設問をセレクト。アタックすることを通じて解答力を高められる設問ばかり。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

既存講座の早稲田大学現代文――こちらも合わせて活用してください――

高3　トップ&ハイレベル現代文

★第一講その1…政治経済学部（テーマ＝民俗学）
★第九講…………スポーツ科学部（テーマ＝民俗学）
★第十四講………文学部（テーマ＝文学論・演劇論）
★第十七講………スポーツ科学部（テーマ＝身体論・芸術論）
★第十八講………国際教養学部（テーマ＝文学論）
★第十九講………政治経済学部（テーマ＝学問論）
★第二〇講………法学部（テーマ＝日本文化論・音楽論）
★第二十三講……政治経済学部（テーマ＝日本語論・翻訳語論）

高1高2　現代文

★第一講その2…人間科学部（テーマ＝認知科学論・時間論）
★第十一講………人間科学部（テーマ＝宗教論・日本文化論）
★第十四講………教育学部（テーマ＝道に関する随筆）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

早稲田大学　国語入試問題の学部別系統

※設問数は年度毎に微増微減がある

文学部《現代文（論説）／現代文（論説）／古文／漢文》……全二十八問……試験時間九〇分・配点七五点

文化構想学部《現代文（論説が複数）／現代文（論説）／現古漢融合》……全二十四問……試験時間九〇分・配点七五点

人間科学部《現代文（論説）／古漢融合》……全二〇問……試験時間六〇分・配点五〇点

スポーツ科学部《現代文（論説）／現代文（論説）／古漢融合》……全二〇問……試験時間九〇分・配点七五点

教育学部《現代文（論説）／現代文（論説）／古漢融合》……全二十九問……試験時間九〇分・配点五〇点

国際教養学部《現代文（論説）／現代文（小説）／古文》……全十九問……試験時間六〇分・配点五〇点

政治経済学部《古漢融合／現代文（論説）／現代文（論説・記述あり）》……全二十九問……試験時間九〇分・配点七〇点

法学部《古漢融合／現代文（論説）／現代文（論説・記述あり）》……全二十一問……試験時間九〇分・配点五〇点

商学部《現代文（論説）／古漢融合》……全十九問……試験時間六〇分・配点六〇点

社会科学部《現代文（論説）／現古融合》……全二〇問……試験時間六〇分・配点四〇点

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

目次

第一講　文化構想学部　文芸論……p. 13
第二講　文化構想学部　認識論・科学論……p. 21
第三講　法学部　学問論・弁証法……p. 28
第四講　文学部　芸術論・建築論……p. 36
第五講　商学部　近代化社会論……p. 43
第六講　政治経済学部　芸術論（近代文語文）……p. 50
政治経済学部　文学史過去問題総復習／予想問題……p. 56

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第一講　文化構想学部　文芸論

次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

ひとことで言えば、それは郷里の風景に似ていた。はじめての道路を走っているのに親しさの度は徐々に高まり、きっとあの辺にありそうだと感じた予想どおりの場所に、窯(かま)の存在を示す細い煙突が何本かあらわれた。萩(はぎ)のほうにむかっていることは旅程表でわかっていたけれど、陶土の出そうな山の姿や工房の場所にこれほど共通した[a]があるとは思いもしなかったのだ。

子どものころ、ときおり自転車で遊びに出かけていた友だちの家の裏山に、大きな煉瓦工場があった。細い坂道をのぼりつめた先の敷地にあった工場の、庇(ひさし)のある搬出口に積まれた煉瓦の山をつかって、私たちは守衛のおじさんに叱られながらよく遊んでいたし、じつを言えばこれもまた学校行事の一環だったのだが、窯の様子などを解説つきで見学したこともあるものだから、バスの窓の外にひろがる萩近郊の風景に記憶のなかの工場周辺とそっくりな地形を発見し、発見したばかりでなくあきらかに煉瓦を焼いている建物まで確認した私は、マイクを手にしたうるわしい訛(なま)りのあるバスガイドさんの差配ではなく[A]修学旅行の神が与えてくれた偶然の差配のほうに、ひそかに感謝していた。陶器の工房や煉瓦工場がどうのということではない。それらをとりまく地形にはなんとも言えない安堵感があったのだ。しかし、その感覚はまた、道中に強いられるつまらない余興ともべつの位相で、「退屈」と評すほかないものだったのである。[イ]当時の私は、この「退屈」の質の相違に、きちんと言葉を与えることができなかった。

ところで、先般、その「退屈な」風景に出会わせてくれた山口県を、二十数年ぶりに訪れる機会があった。山口市湯田温泉でおこなわれる中原中也賞授賞式の「余興」として、なんでもいいから夭折の詩人にかかわる話をしてほしいと頼まれたのが前年秋のこと、私はちょうどジョルジュ・ペロスという詩人について脈絡なくつづった評伝ふうの作品を上梓したばかりだったのだが、このペロスの作品に「退屈さについて」と題された断章群があって、拙著の最後に、「日曜日は退屈である。だれにとっても日曜日だから」という一節を引用していたためか、なにを読んでも私の目は「退屈」の二文字に反応していたらしい。[ロ]おなじころ刊行された『新編中原中也全集』の、評論と小説が収録された第四巻をぱらぱら開いているうち、「普通に人々が、

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

この景色は佳(よ)いだのあの景色は悪いだのと云ふ、そんなことは殆(ほと)んど意味もないことだ。人の心の奥底を動かすものは、却(かへ)って人が毎日いやといふ程見てゐるもの、恐らくは人々称(よ)んで退屈となす所のものの中にあるのだ」という、中也の自伝的エッセイ「一つの境涯」の冒頭に掲げられているエピグラフに引きつけられたのも、たぶんそのせいだろう。「筆者不詳」と断り書きがあるものの、これはどうやら中也自身の創作らしい。しかし私は、なぜかふと、これが、西洋語で書かれた作品の一部を中也が翻訳もしくは翻案したものだったとしたら、だれの言葉に近いだろうかと妄想をたくましくし、「退屈」ではなく「景色」の一語を手がかりに、ジンメルの「風景の哲学」を読み返したのだった。

景色とは主に自然のありさまを指す言葉であり、他方、風景とは、自然にかぎらず、なんらかの趣をそこに読みとっての、見る側の主観の入った言葉である。［ハ］ジンメルによれば、風景とは自然のなかの局限であって、われわれが自然の景物の「総計」ではなく確実に風景を見ているとき、結局のところ、その作業は絵画を描くのとおなじことになるという。

> 風景は個別性のうちに閉じこもり、自足していながら、しかも何の矛盾もなしに、自然の全体と統一に密着している。ただしその際否定しがたいのは、「風景の成立」がもっぱら以下のような筋道をたどって行われるということである。直観と感情のうちに脈々と生動している生が、自然の統一から身をもぎ放す。しかしそうして作りだされ、全く新しい層に移送された特別な形象は、いわば初めて自発的に全体の生におのれを開き、隙間のないその境界の中へ、無限なるものを受け入れる、という道筋で。
>
> （ジンメル「風景の哲学」川村二郎訳）

むずかしい言い方だが、おおもとにあるのは、風景がひとつの精神的な［b］だという一点であり、まちがいなく存在しているにもかかわらず、現実にはけっして触れえない空間であるとの認識だろう。景色が風景になったとき、それは乾いた地肌を見せる粘土質の山や灌木の繁み、煉瓦干しの棚や窯のうえの煙突といった事物から具体性をひきはがして、こちらの創造力との関係性のなかでしか生まれえない架空の磁場になっている。「すでにある外の世界とわれわれの創造性とのもつれ合い」とジンメルは表現しているけれど、私が眠い目で見ていたバスの車窓風景は、もっとありきたりな景色に近く、創造性などこれっぽっちもないただの合成画像のようなものだった。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

しかし同時に、ただ眠さのゆえばかりではない気分が道中の景色にはあって、その気分がどこかべつの場所で嗅(か)いでいた気分にひどく似ていると感じたことは、はっきり身体のなかに残っている。そして、その気分にいちばん近い肯定的な言葉が、私にとってはどうやら「退屈」に当たるようなのだ。［ニ］「一つの境涯」と、十代なかばの集団「余興」のさなかに意識した、乾いた粘土のような気分が曖昧に混じりあったのは、このような順序を踏んでのことで、授賞式の「余興」に使える材料としては、だからあの煉瓦工場が登場する『在りし日の歌』の「思ひ出」しかなかったのである。

岬の端には煉瓦工場が、
工場の庭には煉瓦干されて、
煉瓦干されて赫赫(あかあか)してゐた
しかも工場は、音とてなかつた

煉瓦工場に、腰をば据えて、
私は暫(しば)く煙草を吹かした。
［c］ぼんやりしてると、
沖の方では波が鳴つてた。

あたたかい春のはじめの陽射しを浴びた煉瓦工場。山間ではなくてこれは海に近い場所だから、私が退屈するほど遊んでいた煉瓦工場の周辺とは大気の質も空のひろさもちがうけれど、このあたりを視野に収めるために、語り手の「私」はどんな位置に立ち、どんな角度から見ているだろうか。海と煉瓦工場をふたつとも視野に収めるには、岬の端を見下ろす感じで高台に立っていなければならないはずだが、詩の記述にしたがえば、その後移動して敷地に入り、どこかに腰を下ろしているのもあきらかだから、ここには時間だけではなく空間の移動もある。煙突のうえは空、岬の先は海、そして、周囲には海のかおりを抑えるように、焼きしめた粘土のにおいが漂っている。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ともあれ、詩のなかで時間がゆがみながらも進展し、煉瓦工場のある岬の突端は、「私」のなかでたしかな風景に育てられていく。煉瓦はひとつずつ焼かれ、乾かされ、積みあげられて、べつの建造物に生まれ変わるのだ。ここで煉瓦を言葉に置き換えるなら、「思い出」のうるわしい退屈さは、言葉を生産する工場が廃墟となっていく過程の、正当な風景化のなかにこそあるといえるだろう。［ホ］

（堀江敏幸（ほりえとしゆき）「煉瓦工場の退屈」による）

問1　文章中の［a］に入るもっとも適当な語句を次の中から選べ。

イ　におい　　ロ　しめり　　ハ　くらさ　　ニ　ひびき　　ホ　にじみ

問2　傍線部A「修学旅行の神が与えてくれた偶然の差配」を説明しているもっとも適当なものを次の中から選べ。

イ　修学旅行で行った土地を二十数年ぶりに訪れる機会があり、以前に味わった気分の意味が偶然のように理解できたということ。

ロ　子どものころに遊んだのと同じような煉瓦工場を歌った詩を、二十数年後に用いて話をする機会にめぐりあわせたということ。

ハ　修学旅行の際におこなった余興の退屈さと同質の気分が、詩人のエッセイのなかに書かれているのを偶然発見したということ。

ニ　修学旅行のバスでの移動の際の退屈しきった気分を、バスの車窓からたまたま目にした景色が吹きはらってくれたということ。

ホ　修学旅行で訪れたのがたまたま故郷と同じく陶器や煉瓦を焼く土地で、土地勘がはたらくほど風景が酷似していたということ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問3　次の文は、本文中に入るべきものである。[イ]～[ホ]からもっとも適当な箇所を選べ。

だから日常目にしている景色を退屈だと感じた瞬間、景色は景色であると同時に、風景になる。

問4　文章中の[b]に入るもっとも適当な漢字二字の語句を、「風景は個別性のうちに閉じこもり」で始まるジンメル「風景の哲学」の引用部分から抜き出し記せ。

問5　文章中の[c]に入るもっとも適当な表現を次の中から選べ。

イ　煉瓦眺めて　ロ　陽射し浴びて　ハ　煙草吹かして
ニ　波音聞いて　ホ　潮の香嗅いで

問6　本文に書かれていることから推論不可能なものを次の中から一つ選べ。

イ　筆者は中原中也の詩集『在りし日の歌』のなかで「思ひ出」が好きである。
ロ　筆者は修学旅行の集団余興のたぐいを楽しく愉快なものとは思っていない。
ハ　筆者は修学旅行の際感じた風景の退屈さの質について十分に理解している。
ニ　筆者は煉瓦も言葉も何かを構築するものだがやがて変質してゆくと考える。
ホ　筆者は日々繰り返されるような退屈さの中に捨てがたい魅力を認めている。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第一講　知識モノ解説

文学史・人物解説

●筆者　堀江敏幸＝ほりえ　としゆき（一九六四〜）岐阜県生まれ、早稲田大学第一文学部フランス文学専修卒。その後、東大大学院、パリ第三大学で学ぶ。芥川賞受賞作家にして早稲田大学教授。慶應大文学部の小論文でも登場しています

●中原中也＝なかはら　ちゅうや（一九〇七〜一九三七）山口県生まれ、詩人。詩の雑誌『四季』『歴程』の同人。代表作に『山羊（やぎ）の歌』（汚れっちまった悲しみに……はこの中にあります）『在りし日の歌』

●ゲオルク・ジンメル（一八五八〜一九一八）ドイツの哲学者。『貨幣の哲学』も有名

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

語句

一環＝いっかん→全体のなかのある部分。「教育の一環として文化祭がある」というと、四月の年度始まりからスケジュール化された一連の学校行事の一部として、文化祭が行われるということ。「一貫」は、初めから終わりまでを貫くもの。「首尾一貫」

差配＝さはい→指図して、取り仕切ること。管理すること

余興＝よきょう→宴会などの場を盛り上げるための芸

位相＝いそう→位置取り、位置づけ。次元、フェーズ

同音異義語　移送＝いそう→場所などを移動すること、移し変えること

酷似＝こくじ→そっくりなこと、非常に似ていること

夭折＝ようせつ→若くして世を去ること。夭逝（ようせい）と同じ

拙著＝せっちょ→「拙」は「つたない・未熟」という意味で、自分の著作物を謙遜して、ひかえめに言う表現。自分の息子を「愚息（ぐそく）」、自分の奥さんを「愚妻（ぐさい）」と呼ぶのも同様のへりくだりで、本気で言ってるわけではない。当然、妻が夫を表現する際には「愚夫（ぐふ）」となるはずですが、辞書には載ってない。ちなみにモビルスーツではない

上梓＝じょうし→本を出版すること。刊行

エピグラフ→序文や前書きのこと。石碑などに刻む碑文という意味もある。エピグラムは風刺や警句（簡潔で気のきいたことを言うこと）

翻案＝ほんあん→アレンジ。原作の大筋は生かしながら改作すること。四字熟語で言うと換骨奪胎（かんこつだったい）

形象＝けいしょう→表現されたもの、心に浮かぶイメージ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第一講

次の傍線部にあたる漢字を、次の各選択肢から選びなさい。

（ア）旅テイ表をたしかめる　①態　②底　③程　④提　⑤定

（イ）荷物のハン出口　①搬　②班　③伴　④般　⑤販

（ウ）学校行事の一カンをなす　①貫　②観　③巻　④環　⑤管

（エ）東京近コウの風景　①行　②効　③交　④航　⑤郊

（オ）ヨ興で盛り上がる　①世　②夜　③余　④与　⑤予

（カ）原作をホン案する　①翻　②本　③汎　④反　⑤奔

（キ）合セイ画像を分析する　①生　②成　③制　④製　⑤性

（ク）モウ想をたくましくする　①猛　②妄　③盲　④蒙　⑤孟

（ケ）作家のキョウ涯を描く　①興　②教　③経　④境　⑤鏡

（コ）物語が進テンしていく　①転　②典　③展　④天　⑤点

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

テキスト解答・解説

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

誤りの選択肢の典型例一覧　〈誤りに名前をつけられるほどのパターンがある！〉

1　対比混乱の誤り　……本文中で**対比・区別**されていることばを同種のものとして扱ってしまっている誤り。あるいは、主役キーワードの説明を求めている設問で、敵役キーワードを挙げている誤り。**キーワードのグループ分け失敗**の選択肢といってもいい。

2　同一性分断の誤り　……本文中で同種のことばを対比であるかのように扱ってしまっている誤り。これも**キーワードのグループ分け**失敗。**同質性分断**ともいう。

3　正しい対比喪失の誤り　……本文中で**「A↔B」**という対比で記述されているのに、無関係な「C」という要素を勝手にもちこんだり、**「C↔D」**といった本文にない対比をもちこんでいる誤り。例えば、本文は**「善↔悪」**という対比で書いているのに、「美」や「醜」という無関係な対比をもちこみ、本文の正しい対比を見失っている誤り。

4　不当な全称判断　……本文中の記述がないのに、**「すべての○○は」「あらゆる○○は」**と勝手に拡張している誤り。類似した誤りとして**不当な一般化**があります。例えば本文では「バラ」という個別のものに焦点を当てているのに、「花というものは」などと拡張している誤り。

5　不当な限定判断　……本文中の記述がないのに、**「○○のみ」「○○だけ」**と勝手に縮小してしまっている誤り。類似した誤りとして**不当な矮小化**（わいしょうか）があります。例えば本文では「人間関係全般について」書いてあるのに、「近所づきあい」の次元を書いている選択肢。話を不当にちっぽけにしているわけです。

6　不当な価値判断　（不当な当為（とうい）判断）……本文では「○○である」「○○だ」という事実判断をしているのに、**「○○であるべきだ」「○○にしなければならない」「○○する必要がある」**と勝手に改変してしまった誤り。またAとBの特徴の比較をしているだけなのに、**Aの方が優れているといった優劣を持ち込んだ**選択肢の誤り。特に論文を読んだり書いたりする上で、「事実判断と価値判断（当為判断）」との違いには気を使う必要があるんだよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

7 **部分的指摘の誤り** ……本文中では、**「AとともにB」「Aと同時にB」「AしかもB」**と追加表現がなされているのに、「A」だけ、あるいは「B」だけを扱ってしまっている誤り。本文の記述にまったく反しているわけではないため、「高度な」誤りといえます。こういうものに気づけるようになることが、現代文での高得点のカギだよ。

8 **記述に反する誤り** ……文字通り、本文中の記述に真っ向から反する選択肢。例えば本文では「AはBである」としているのに「AはBではない」としている誤り。

9 **記述なし** ……文字通り、本文中の記述にはいっさい書いてない内容を勝手にのせている選択肢。ただし、「本文の記述に反しているものを選びなさい」といった間違い探しの設問のとき、本文には書いてないだけで、間違いとはいえないということがあるから注意。つまり、「誤り」としては1〜8・10〜12のほうが深刻な誤りといえ、そちらを優先する。

10 **文脈喪失の誤り** ……文章中で特定の意味づけをして使っていることばを、**文脈外の「常識」や辞書的な意味**で扱ってしまっている誤り。例えば、「飛躍」ということばを、本文は「行き過ぎ」「誤解」という意味付けをして記述しているのに、勝手に「発展」「前進」というようにとらえてしまっているもの。

11 **物理的スリカエの誤り** ……**心理や気持ちを問うている設問で、物理的に説明している選択肢。**小説問題の選択肢としてよく出ます。例えば「暗い気持」を天候や日照量の説明にしてしまっている誤り。

12 **比喩を文字通りに解釈した誤り** ……本文中で、たとえになっている表現（擬人法もふくむ）を文字通りにとってしまった選択肢の誤り。比喩は立派な表現技法です。これをリアルに解釈するとずいぶんおかしなことになります。例えば「いやー、歩きつかれちゃって、膝（ひざ）がわらってるよ」なんて表現があるけど、ホントに笑ったら怖い！

13 **具体例は、一段、落ちる** ……具体例を挙げている選択肢は、「最も適当」な選択肢を選ぶ際には、選びたくない。もっとまとまった語句を盛り込んでいる選択肢が正解になる。

14 **比喩による説明は、一段、落ちる** ……たとえで説明している選択肢は、「最も適当」な選択肢を選ぶ際には、選びたくない。もっと明示的な語句を盛り込んでいる選択肢が正解になる。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第一講　文化構想学部　文芸論

《本文の対比構造》

主役＝退屈な風景

肯定表現としての退屈
親しさ・安堵感のある風景
ジンメル「風景の哲学」
見る側の主観や感情の入った言葉

⇕ **主な対比**

比較相手＝景色

主に自然のありさまを指す言葉
すでにある外の世界

⇕ **小さな対比**（主役と脇役）

脇役

道中に強いられるつまらない余興
＝悪い意味での退屈

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

《解説》

問１《空欄補充・選択肢》

　空欄にかかる「共通した」とあるのは、何と何の「共通」でしょうか。それは、修学旅行で訪れている山口県萩（はぎ）近郊の風景と子ども時代の郷里の風景、この共通性です。もっと具体的に言えば、「煉瓦工場」があるような共通性です。「親しさ」のある、なじみの風景を筆者は良い意味で「退屈」と表現しています。本文の言葉では、中原中也の「思ひ出」の詩の前段落に、「どこかべつの場所で嗅いでいた気分にひどく似ていると感じた」とあり、さらに「その気分にいちばん近い肯定的な言葉が、私にとってはどうやら『退屈』に当たるようなのだ」とあります。加えて詩の後段落にも「焼きしめた粘土のにおいが漂っている」とあります。こういうわけで、イの「におい」が正解です。においに記憶が呼び覚まされるということは、一般的にもよくありますよね。初秋などにキンモクセイの香りから、ふっと子ども時代の出来事が想起されたり……。あっ、トイレの芳香剤じゃないからね。

問２《傍線部説明・選択肢》

「修学旅行の神が与えてくれた偶然の差配」とは、第一段落第一行目の「それは郷里の風景に似ていた」と関連します。「それ」とは「バスの窓の外にひろがる萩近郊の風景」のことです。つまり、修学旅行中に出会った風景が「子どものころ」の「記憶のなかの～地形」と似ていることに対して「神」に「感謝」しているのです。

　したがって、ホが正解です。「修学旅行で訪れたのがたまたま郷里と同じく～酷似」がいいですね。イは「二十数年ぶりに訪れる機会」が×です。それはすっかり大人になって「中原中也賞授賞式」に行くときの話です。時間の流れで番号をふれば次のようになります。すなわち、〝Ⅰ子ども時代の郷里で見ていた風景〟〝Ⅱ修学旅行で見た山口県萩近郊の風景〟〝Ⅲ大人になってからの山口県に二十数年ぶりの再訪〟です。ⅠとⅡの出会いを「偶然の差配」と呼んでいるのでした。するとイはⅡとⅢのコンビネーションゆえに間違いなのです。するとロも「子どものころ～二十数年後～機会」とありますから、ⅠとⅢのコンビネーションとなってしまい、×。ハはたくさん間違えています。まず時間の区分でいうと「修学旅行の～気分」「詩人のエッセイ～偶然発見」とありますから、ⅡとⅢのコンビネーションで×。さらに修学旅行の際の「退屈」についても間違えていま

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

すよ。筆者は、「退屈」を肯定表現と否定表現に使い分けています。《本文の対比構造》を見てください。動画講義の中でもこれを色分けしているでしょ。「親しさ」「安堵感」に結びつく風景を表現する肯定的な言葉として「退屈」があります。それは、旅行中に「強いられるつまらない余興」の退屈さとは「べつの位相(次元)で、『退屈』」なのです。これははっきり対比です。それなのにハは、「余興の退屈さと同質」としてしまいました。はいそうです、対比混乱の誤りです。ニも同種の間違いです。「バスでの～退屈しきった～吹きはらってくれた」とあり、「退屈」をあきらかに否定的にとらえています。したがって、対比混乱の誤りと言えます。

ところで、「修学旅行の神」なんているんですかね。まあ、トイレにも神様がいるらしいので、八百万（やおよろず）の神様の中には、修学旅行担当がいてもおかしくないかもね。みなさんも受験勉強に煮詰まったとき、トイレ掃除すると気分転換になり、爽快な気持ちでまた勉強に向かえたりするよ。

問3《脱文挿入・選択肢》

この脱文挿入は、早稲田大学の多くの学部でよく出題される形式です。言い換え表現が「脱文」になるのが基本パターンです。今回は「だから日常目にしている景色を退屈だと感じた瞬間、景色は景色であると同時に、風景になる。」が脱文で、〝景色→風景〟という転換や変化を表現しているところを見つけて、その後の箇所に挿入、戻してやることになります。空欄イやロまでは「風景」はあっても、それと対比になる「景色」は出てきません。空欄ハの前に、「景色とは主に自然のありさまを指す言葉であり、他方、風景とは、自然にかぎらず、なんらかの趣をそこに読みとっての、見る側の主観の入った言葉である。」とあり、はじめて「景色」と「風景」をきちっと対比させる表現が出てきます。したがって、ここに入れます。他も確認しておきますが、空欄ニやホの直前には「景色→風景」の対比はありません。

問4《空欄補充・文中から抜き出し》

空欄にして本文中の適切な語句を埋める問題も、脱文挿入と同様に、早稲田大学の各学部でよく出るタイプの問題です。漢字二字という指定とジンメルの「風景の哲学」の引用部分からという指定が設問文に含まれるヒントです。空欄箇所は、「風景が

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ひとつの精神的な［b］だ」となっており、最大キーワードである「風景」の説明をするわけです。しかも「精神的」と関連づけて。そこで、ジンメルの引用箇所で「精神的」に近い表現としては、「直観と感情」があります。引用箇所の前にも「風景とは～見る側の主観の入った言葉」とあります。風景はただありのままの自然の眺めではなく（それは景色）、人間の心の中で、作りだされ、生まれるもののようです。では、肝心の引用箇所で「風景の成立」をどう語っているか。「直観と感情のうちに脈々と生動している生が、自然の統一から身をもぎ放す。しかしそうして作りだされ、全く新しい層に移送された特別な形象」とあります。まことに難渋な表現ですが、「形象」が〝作られたもの〟を意味することは、かろうじてわかります。そう、「形象」、これが正解です。風景とは「精神的な形象」、心の中の世界で作られたものということになります。

問５《詩の表現技法・選択肢》

韻文（詩のこと）の表現テクニックであるリフレイン（繰り返し）が問われています。第一連（最初のかたまり、四行）のうち、第二行目と第三行目に「煉瓦干されて」があり、反復によって言葉のリズムを生んでいます。これにならって第二連（後のかたまり）第二行目「煙草を吹かした」と第三行目が反復になる必要から、ハの「煙草吹かして」を選びます。散文（小説や論説）では、反復はくどいと感じられ、対比を出しながら言い換え説明をしていくのが基本的なスタイルです。一方、詩＝韻文は、なにより説明ではないと言われるように、言葉そのものの響きを大切にします。

問６《全文の理解・誤りの選択》

本文の記述からは推測できない誤りを選ぶ問題です。筆者は肯定的な意味での「退屈」と「風景」をふまえて、中原中也賞受賞式での「余興」として、「使える材料としては、だからあの煉瓦工場が登場する『在りし日の歌』の「思ひ出」しかなかったのである」と言っています。筆者が『在りし日の歌』の中で「思ひ出」が「好き」とは推論不可能です。したがって、イが正解です。ロはどうか。修学旅行のバスの道中で強いられた余興を「つまらない」と表現しています（カラオケで歌うとか一発芸を披露するとかしなければならなかったのでしょうかね）。したがって「筆者は修学旅行の集団余興のたぐいを楽しく愉快なものとは思っていない」は、正しく推論されえます。ハの「筆者は修学旅行の際感じた風景の退屈さの質について十分に理解してい

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

る」は正しく推論可能です。この「筆者」はこの文章を書いているときの筆者ですからね。修学旅行「当時の私」は、「この『退屈』の質の相違に、きちんと言葉を与えることができなかった」とありますが、今や筆者は本文中にて存分に「退屈」について語っています。ニの「筆者は煉瓦も言葉も何かを構築するものだがやがて変質してゆくと考える」はどうでしょうか。最終段落に「煉瓦を言葉に置き換える」という表現がありますよ。さらに「時間」「育てられていく」「生まれ変わる」などという表現もありますから、推測可能と言えるでしょう。ホの「筆者は日々繰り返されるような退屈さの中に捨てがたい魅力を認めている」は、もちろんＯＫです。

模範解答

問１＝イ　問２＝ホ　問３＝ハ　問４　形象　問５＝ハ　問６＝イ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　解答　第一講

（ア）③　（イ）①　（ウ）④　（エ）⑤　（オ）③
（カ）①　（キ）②　（ク）②　（ケ）④　（コ）③

解答漢字一覧

（ア）旅程表　（イ）搬出口　（ウ）一環　（エ）近郊　（オ）余興
（カ）翻案　（キ）合成　（ク）妄想　（ケ）境涯　（コ）進展

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。